

平成25年度 見附市社会科部 活動報告

部長 高橋 豊

1 研究主題

- 地域教材の教材化を図る。

2 研究の概要

- (1) 期 日 平成25年8月21日(水)
- (2) 会 場 イングリッシュガーデンホテルレアント
- (3) 研修日程
 - イングリッシュガーデンホテルレアントの見学
 - ホテルレアント支配人 菱田 瞳様の講演
 - 教育課程研究集会の伝達講習

3 研究の実際

イングリッシュガーデンホテル支配人の菱田瞳様から講演してもらうことで、サービス業という仕事への理解と、その教材化をするうえで大切なことについて研修を深める。

(1) 社員を大切にする

スタッフに下記のような「プロ」を置き、リーダーの下、それぞれが力を発揮できるようにする。

- ◎ 一人一人の成長が企業の成長であるという信念
- ◎ 「誠実」「感謝の心」を合い言葉にした取組
- 「色」をプロデュースするプロ ○ 「食」をプロデュースするプロ
- 「花」をプロデュースするプロ ○ 「縁」をプロデュースするプロ
- 「美」をプロデュースするプロ ○ 「画」をプロデュースするプロ

(2) お客様、地域とのつながりを大切にする

- お客様一人一人にあったサービスを心がけ、お客様とのふれあいを大切にする。特にブライダルにおいては、時間がかかっても十分な打ち合わせを行う。打ち合わせを通して絆をつくるようにしている。
- レストランで出す料理の食材は、見附市でとれた食材を使うようにしている。

(3) ホテルの新しい「かたち」を提案する

- イングリッシュガーデンと一体となった城をイメージしたホテル＝泊まるだけのホテルからの脱却
- ビジネス関係の宿泊者だけでなく、長岡花火等の観光の拠点としての利用する宿泊の開発

4 成果と課題

昨年、一昨年の研修では、工場や遺跡を取り上げて研修を深めてきた。そのときは、「もの」にどうしても目がいった。今回は、もちろんホテルの環境などの「もの」にも目がいったが、「ひと」の果たす役割の大きさについて改めて研修を深めることができた。

人と人との関わり、どのように宿泊者と接しているかなど、教材として取り上げたときに、子どもたちには見えにくい部分もあるが、それを工夫するところに社会科としてのおもしろさがあると考えられる。これは、他の産業を教材化する場合においても同じである。「人」から迫る教材化を今後深めていきたい。